

第 604 回：論文やレポートの書き方について（9）（DM）

みなさま、こんにちは。LA 毎週月曜 12 時～15 時担当、博士課程 2 年の DM です。

今回からは、資料調査の手順を説明していきます。今回は特に、資料調査とは何であり、どうして必要なのかという点に注目していきます。

この連載では、資料調査という単語を、次のような二つの意味を持つものとして定義いたします。すなわち、1) 調査対象としての資料を集めるという意味、2) 先行研究としての資料を集めるという意味の二つであります。すなわち、資料調査を通じて私たちが見つけなければいけないのは、分析の対象となるような資料と、その対象となる資料を分析するための資料の、この二つであるわけです。

資料調査で探すべきこの二つの資料については、実験という比喻を使うと分かりやすいと思います。すなわち、調査対象としての資料を実験材料、先行研究としての資料を実験道具として捉えるのです。どんな初歩的な実験だって、道具を使って材料に働きかけるという作業がなければ、それを実験と呼ぶことはできません。テキストを読み込む作業だって、それと同じことであります。先行研究を読み込んで、一定の再現性のある読み方、一定の客観性のある読み方、すなわち一定の科学性のある読み方を学ぶ。そして、その読み方を使って、今度は実際にテキストという具体的な調査対象を読み込んでいく。これだけでも簡単なレポートぐらいは書くことができます。そこからさらに進んで、先行研究の論点に、小規模でも何か新しい発見をすることができたなら、ちゃんとした論文だって

書くことができるでしょう。このように、資料調査とは、自分が研究を行うのを可能にする環境を準備するという点において、必要な作業なのであります。

これと全く同じことを、より具体的に、たとえば文学作品のテキストを調査対象にしたとしても、言うことができます。或る特定の文学作品について、既に複数の論者が似たような論点から論じているならば、その論点は、一定の客観性、すなわち一定の科学性を持っていると言えます。すなわち、先行研究の論点は科学的な道具になり得るのです。世間的には、文学作品を研究するというのは、科学とは何の関係もないことのように思われがちです。ですが、先行研究を道具として使いながら文学作品を読み解いていくことができるならば、文学研究もまた科学的である、とすることができるのです。物理実験が科学的であるのは明らかなのと、全く同じことなのであります。

以上のことから、資料調査とは、調査対象と先行研究という二つの資料を集める作業のことであり、研究環境を準備するという意味で必要な作業であると言えます。ちなみに、ここまでの実験の比喻は、小熊英二の『基礎からわかる論文の書き方』を参考にしています。外大図書館にも置いてありますから、関心のある方には一読をお勧めいたします。

というわけで、今回の LA 通信はここまでです。次回は、実際に資料調査を進めていくためにはどういう点に気をつけていくべきかを考えていきたいと思います。みなさま、どうぞよろしくお願いいたします。

第 604 回：論文やレポートの書き方について（9）（DM）

参考文献

小熊英二『基礎からわかる論文の書き方』
（講談社現代新書；2660）講談社、2022 年